

SDGs 教材を高等学校国語教育で活用する 授業展開例の提案

The Proposal on the Lesson Plans of SDGs Materials
for Japanese Language at Senior High Schools

大池 公紀
OHIKE Kiminori

Abstract

Teachers of Japanese Language at Senior High Schools are now required to get out of the conventional teaching method of lecturing. This research focuses on the SDGs, which is a common goal in the world. This study also trains the students to study this policy as a Japanese language education for the purpose of being a Japanese teacher in the future. This research can be fully utilized as a material at senior high schools in Japan.

キーワード：高等学校教育 国語 学習指導要領 国語教育改革 SDGs 持続可能な開発目標 Society5.0 ユネスコ

1. はじめに

(1) 国語の教育改革

新しい高等学校学習指導要領の改訂の経緯では、「持続可能な社会の担い手」「人工知能 AI」や「Society5.0」などの単語が散見され、文部科学省挙げて新しい時代に新たな価値を見出していく覚悟がありそうな予感を感じざるを得ない文章が続く。その中では、新しい時代がやってくることで社会や生活が大きく変化して行くことを踏まえて学校教育でも大きな変革が求められている。

新学習指導要領が公示され、2020年度からは小学校、2021年度からは中学校、2022年度からは高等学校で年次進行で施行される。実は、小学校中学校は新しい学習指導要領の施行に対してあまり動揺はしていない。なぜならば、小中学校では新しい学

習指導要領の展開を待つまでもなくグローバル化やコミュニケーションを重視した学習内容、アクティブ・ラーニングなどの対話的な手法を活用したインタラクティブな学習形態が、既に試みられ実際の学習活動の中に入り込まれている。高等学校の国語科研修会に呼ばれて話をする際には、小学校や中学校の教科書を覗き見することを強く勧めている。義務制国語教科書の中には、小学校中学校の分け隔てなくアクティブ・ラーニング、ワールドカフェ、合意形成と課題解決、インタビュー、ルーブリックやフィールドワークなど驚愕するばかりの学習項目が、既に盛り込まれている。

これらはどうしてか。今回の学習指導要領の改訂の小学校から高校まで串刺しのように貫く大きな項目として「教科横断」と「接続」というワードが挙げられる。実は、小学校中学校で改訂に対して大きな動揺が見られないというこの点に関しては、義務

教育学校の中では既に「教科横断」「接続」とが意識的に展開され、ある程度の結実を示されてきた背景がある。義務教育学校ではさらに今回の改訂で「教科横断」と「接続」は、強く押し進められるようになった。

しかし、それに比べ高等学校教育は、新しい学習指導要領の方向性を示され、アクティブ・ラーニングの言葉が一人歩きし始めた5年前から大きく動揺し揺さぶられてきた。しかしこれまで高等学校教育ではこの「教科横断」と「接続」のワードはあまり意識されることなく現在にまで至っている。今回、高等学校学習指導要領「総則」第1章総則第2款4(1)「中学校教育との接続及び中等教育学校等の教育課程」には、「現行の中学校学習指導要領を踏まえ、中学校教育までの学習の成果が高等学校教育に円滑に接続され、高等学校教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を、生徒が確実に身に付けることができるよう工夫すること。(棒線 大池)」と記されている。しかし、この「接続」の言葉を意識している教員は極めて限られている。このような新しい潮流を知らないのは、高等学校教育に関わる教員(他学科も含めて)ばかりであったことは、認めざるを得ない。これからの高等学校教育は、国語科のみならず全ての教科で小学校中学校と学習の接続を意識して継続性を持った教育活動を進めていく必要がある。

平成28年12月の中央教育審議会答申の中で、今回の学習指導要領が高等学校教育の改革を主眼とすることがはっきりと示された。今改訂が高等学校教育の改革を本気で迫ってきたことに関しては、一部の教育関係者の間では周知のことであった。ある文部科学省関係者が、はっきりと「今回は、教育改革を進めてきても何もできていなかった高等学校を狙っています。」と話してくれたことを今でも鮮明に記憶している。

では、その狙われたポイントは、何か。それは、高等学校教育が「教材への依存度が高く、主体的な

言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業に偏っている傾向」があると中教審で指摘されたことは、多くの人々の知るところでありその変革を本気で求められているといえる。

(2) 高等学校国語教育は、どのように変わるか

現行 H21 告示			改訂 H30 告示		
教科等	科目	標準 単位数	教科等	科目	標準 単位数
国語	国語総合*	4	国語	現代の国語*	2
	国語表現	3		言語文化*	2
	現代文A	2		論理国語	4
	現代文B	4		文学国語	4
	古典A	2		国語表現	4
	古典B	4		古典探究	4

図1

汎用的な能力の育成を重視する世界的潮流を踏まえて、これまで「生きる力」と言われてきたものが、「生きて働く『知識及び技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」の3つの柱に整理された。この3つの柱の出現によって当然学習評価の軸(後述)も変わってくるとともに、国語科の科目構成もガラッと変わった。図1は、「明海大学教職基礎セミナー」の中で示したPPT画面ではあるが、従来の大学生が学んできた必修科目は、「国語総合」のイメージが強いが、高等学校の必修科目は「現代の国語」と「言語文化」の2科目で構成されることになった。ただここで記しておかなければならないのは、「国語総合」がそのまま「現代の国語」「言語文化」の2つの科目に分かれ移行した訳ではない。これは学習指導要領にも明記されているように、2つの科目はそれぞれの特徴を持ち、それぞれの目標があり、そのコンセプトは全く違っている。「現代の国語」は、「生きて働く」国語を意識しており、それを基にした極めて実用的な科目になると予想されている。学習指導要領の中にも「実

社会に必要な国語の知識や技能を身に付け」「論理的に考える力を深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め」と記されており、現場の教員はこの教科書がどのように作られるかを戦々恐々としながら待っている。文学作品が排除されると国文学者らが意見を表明したのは特にこの部分である。「言語文化」は、古代から中世そして近世、近代と文学作品も含めた幅広い国語に関わる作品が掲示されるオーソドックスな国語科目になると思われる。

(3) そして、今回の研究は

SDGs（持続可能な開発目標）という言葉をご存じだろうか。2015年の国連サミットで採択されたこの目標は、将来の世代が安心して住むことができる地球をどうやって作っていくか、そのために我々が取り組むべきことは何かということについて明示された17の目標項目である。そこには企業経済的な活動の面から言えば、食品ロスや省エネルギー、太陽光の活用など地球環境を意識した施策などが盛り込まれている。教育界だけではなく、マーケティング市場の活性化や多くの雇用を生み出す可能性があると考えられている。そのためか書店でも日本経済新聞などから出版されるSDGsに関わる書籍や様々な企業からそれに纏わる企画がHPなどに提起されている。街中でもSDGsの17事項を輪にしたバッジを襟などにつけている人が昨今多くなってきていることに気づかれていることと思う。SDGsを世界共通の成長戦略と捉えている企業もあり今後様々な場面でこのタームが使われることは必至である。当然教育の世界にも国語だけではなく「生物」「総合的な探究の時間」、公民科「公共」などで素材として使われることは明確である。

今回この研究は、このSDGs（持続可能な開発目標）を高等学校国語科の教材として活用した新しい評論文指導を展開し、新しい国語の在り方を開拓する研究である。



SDGs アイコン円状シンボル
(国際連合広報センター HP)

2. 研究方法

2-1 目的

以下の2点を本研究の目的とする。

- 新しい高等学校国語教育の流れの理解
- SDGsを素材にした新しい教材の開発

(1) 教職基礎セミナー（国語）の性格的特徴

この授業を設定した明海大学外国語学部教職課程必修科目であり大学の独自科目である「教職基礎セミナー（国語）」についての説明を加える。この科目の学習目標は、2019年度明海大学シラバスには「将来国語科教員としての必要な言語に関する対する知識・技能を持つことができるようになる」と示している。何故に1・2年生の時期にこの科目が設定されたかについては他の論文を参考にさせていただき、少なくともこの科目では将来中学校高等学校国語科教員となるための基礎的な資質を養うことが謳われている。ゆえに入学前の高等学校までの学習を進化させ、新しい中学校高等学校の国語の流れについても学修することが必須とされている。

1年次前期が教職基礎セミナーⅠ、後期が教職基礎セミナーⅡ。そして2年次前期基礎セミナーⅢ、後期基礎セミナーⅣと教職課程履修者の2年間の必修科目である。1年で高等学校までの復習と2年では教職専門科目と関連付けて授業展開等の体験的な授業内容を設置している。

(2) 国語の改革の周知

国語は、変わる。現在大学1年生の学生が国語科教員の資格を取る際には、新しい学習指導要領のもとで国語教育がなされることを学修することが必要である。なぜなら現1年生は、中教審の言うところの「講義調の伝達型授業」を受けてきた世代であり、その意識を払拭する必要がある。そのような主旨を現1年生にも共通理解をさせる必要があると考え、11月26日に時間を設定してPowerPointを使って説明を加えた。

2-2 研究の展開

(1) 年間授業計画 (添付資料を参照)

小論文と一体化したSDGsの授業は、11月から12月上旬に実施した。これは前期から後期に向かってある程度の質と量を学習した後、新しい試みができるような学生との関係性が作られ余裕をもった時期に新しい単元として設定した。

2019教職基礎セミナーII

火曜日 5時間目 (16:20-17:50) 2203教室 受講者21名

		日程	回	内容
9月	17日		1	漢文1 漢文の読解法1
	24日		2	漢文2 漢文入門
10月	1日		3	漢文テスト+現代文1 蟬と日本語1
	8日		4	現代文2 蟬と日本語2
	15日		5	現代文3 蟬と日本語3
	22日	休日		
	29日		6	現代文4 蟬と日本語4
11月	5日		7	生物の多様性とは何か1 本文中心1
	12日		8	生物の多様性とは何か2 本文中心2
	19日		9	生物の多様性とは何か3 本文中心3
	26日		10	生物の多様性とは何か4 SDGs1 SDGs+国語の変革+課題抽出
12月	3日		11	生物の多様性とは何か5 SDGs2 課題抽出・討議
	10日		12	古文1 歌物語 (伊勢物語など)
	17日		13	古文3 東下り (伊勢物語)
	24日		14	古文2 芥川 (伊勢物語)
	31日	冬季休業		
1月	7日	冬季休業		
	14日		15	古文3 筒井筒 (伊勢物語)
	21日	定期考査		

(2) 授業展開の内容**① 11月5日(火)**

使用教科書 東京書籍『国語総合』「生物の多様性とは何か」(福岡伸一)

90分の講義時間を45分2構成で考えている。11月5日、12日、19日は「生物の多様性とは何か」学習のオーソドックスな授業展開と考えてもらって良い。

5日は、4月の段階で小論文の読み方について約2週間にわたって重点的な指導を重ねた。その中で、音読を重視し、接続詞、繰り返し、キーワードの発見、言い換え表現を指導した。今時は、再度本文読み(黙読)、音読、段落ごとの内容理解、難意語の抽出の展開を進めた。

② 11月12日(火)

大学の授業の欠点は、1週間に1度程度しか講義のないことである。高等学校までは週に3~4時間目の現代文古典様々な国語に関する授業が、散りばめられている結果国語への関与感があるが、大学に関しては週一回の講義ゆえに前週の学習の残像が次の時間まで継続することが極めて難しい。大学の行事などによって間が空いてしまうことがあり、その場合には学生の集中力を呼び覚ます努力と工夫を教授者が与える必要がある。12日からは再度黙読そして音読の作業から入ることをあえて実施した。

③ 11月19日(火)

当然この時間も黙読・音読作業から学習し本文の後半の単元に入って行く。また、単元のまとめとしてワークシートを活用した学習を開始する。

個人学習1

- (1) ワークシート1(資料1)を配布する。
- (2) 「生物の多様性とは何か」で書き手の福岡伸一が主張したいことはどのようなことか80~100字程度でまとめさせる。

指導のポイント

学習の振り返りを通して、書き手の主張だけではなく、それを元にした自分自身の考えをまとめるように指導した。しかし、実際には、文字にする作業を自主的に進められない学生が少なからずおり、記述作業が滞っている学生にはどうして書けないかを聞き取り丁寧に支援をする必要があった。

グループ学習1

- (3) グループ(5人)に分かれて各生徒が自分の文章の説明をする。
- (4) 構成的グループエンカウンター形式で一人1分30秒ずつ自分の書いた記述内容を説明する。
- (5) 各生徒の発表を基にしてグループとして80~100字程度にまとめる。
- (6) 3グループを抽出して書画カメラにまとめの文章を映し出させ、各グループ3分で説明する。

指導のポイント

- グループに分かれてからの各学生からの説明は、これまで一年間エンカウンターで授業展開していた甲斐もあり、それほど苦労することなく始めることができた。計時は、大池が実施した。
- 各グループの中で出てきたコメントを15分間を使って纏め上げる作業をさせたが。この時間に困難さを感じているグループがいくつかあった。本学の学生は、従来高等学校生活で学習面でのリーダーシップをとってくる経験が余りなかったのでリーダーシップを取れる学生がおらず、まとめ役を教員から指名しなければならない事例が1あった。ただまとめ上げた後のプレゼンテーション発表においては、初めて使う書画カメラの使い方に苦戦しながらもある程度の発表は実施することができた。

④ 11月26日(火)

90分間を3構成で展開をした。

「生物の多様性とは何か」の最終的なまとめ

やはり黙読と音読からスタートした。前時間の最後、3グループによるプレゼンテーション発表の文章をワードのA4に書き写し書画カメラで掲示することで、大池が直接筆を入れてまとめとなる文章を再構成し最終的なまとめとした。

今後の国語の教育改革

現1年生の学校歴は、普通科、総合学科、商業科、工業科、海洋学科、通信制等多様である。彼らの国語観（国語総合と2年次以降の選択科目の履修歴による）は、極めてバラバラであるが、唯一「国語総合」のイメージは極めて強い。その「国語総合」が、しばらくするとなくなってしまうという衝撃的な展開から今後の国語の教育改革の話を進めた。この内容については序論で記述したので省略をする。

SDGsなど新しい国語の在り方

新しい国語の流れの中で新しい視点を踏まえた極めて広い視点を持った国語の教材が新しく入ってくることを講義の最後で触れることとした。詳しくは、次回以降授業展開をすることを示唆した。

⑤ 12月3日(火)

今時も3構成で展開をした。

これからの時代とSDGs(持続可能な開発目標)について

唐突ではあるが、冒頭でSDGsについての調査を出席者18名に対して実施した。

(講座21名 出席18名調査)

知っている。 内容も理解している。	どこかで見たことがあるが、内容は知らない。	全く知らない。
0	1	17

この数字は、大学一年生のある程度妥当な数字である。高等学校の現場もこの程度の認識でだと考えられる。この意識を変えていくのが、この授業の主旨であり、結果的には十分にその端緒となり得たと

考える。

SDGsについてはPowerPoint資料を配布し、この部分が肝であると考え、若干時間をかけて丁寧に説明をした。将来国語科教員になる学生にとっては、今後必須の知識であり、2020年の小学校、21年の中学校そして22年の高等学校国語教科書でも必須の教材として挿入されてくるはずであり、その指導ができるように今から意識的に備える必要があることを説いた。その上で、自分自身の課題を17の中から見つけ出し日々学習生活の中でも意識していくことが、宇宙船地球号のメンバーとして必要であることを付け加えた。

個人学習2(課題の抽出)

SDGs17項目の中で自分が関心のある2項目を取り上げて、その理由を記述する。

グループ学習2(解決策とプレゼン)

- (1) グループに分かれる。
- (2) グループ内で各自が取り上げた項目を一人2分間ずつプレゼンする。
- (3) 出されたいくつかの項目の中からグループとして1項目を取り上げて、その課題の解決策を考える。
- (4) 全グループが、それぞれのグループが取り上げた課題と解決策をまとめて教室3面のホワイトボードに記述して説明をする。
- (5) 配布プリント裏面のこの時間の評価をする。

指導のポイント

○SDGsについては、現在の学生は高等学校教育の中ですでに「総合的な学習の時間」や公民科目等でボランティアや地球環境に関する学習経験があり決して無関心ということはない。かえっていく幾人かの学生が自分自身の考え方を提案し、授業を効果的に進めることに協力的であった。

○個人作業に関しても先の項目の延長で(記述例を見てもわかるように)日常生活の中でささやかな課題であっても見つけ出せることが分かっ

た。

- グループ学習に関しては、これも従来の学習歴からお互いの考え方を比較的早く提案し考え方を主張できるようになっていた。勿論自分の考えを表出することを苦手としている学生はおり、その学生に関しては強い指導はしなかった。
- プレゼンに関しても記述はさせることができたが、全ての発表までの時間はなかったことが悔やまれる。

3. 調査結果

5回目の講義に当たる12月3日、講義の最後にこの5回を振り返り学生の評価及び調査を実施した。その内容は次の(1)から(3)までである。

(1) 学生が取り上げたテーマ

今回の研究目的は、1から17の目標の多少を評価分析することではないので一覧を提示することだけにする。

学生個人の取り上げた項目 (18名 各2項目)

目標	項目	数字
1	貧困をなくそう	5
2	飢餓をゼロに	4
3	すべての人に健康と福祉を	1
4	質の高い教育をみんなに	0
5	ジェンダー平等を実現しよう	5
6	安全な水とトイレを世界中に	2
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	3
8	働きがいも経済成長も	3
9	産業と技術革新の基盤を作ろう	0
10	人や国の不平等をなくそう	7

11	住み続けられるまちづくりを	2
12	つくる責任つかう責任	0
13	気候変動に具体的な対策を	5
14	海の豊かさを守ろう	1
15	陸の豊かさも守ろう	1
16	平等と公正をすべての人に	1
17	パートナーシップで目標を達成しよう	1

グループ討議時テーマ

2	飢餓をゼロに	1
5	ジェンダー平等を実現しよう	2
10	人や国の不平等をなくそう	1

(2) 授業へのコメント

以下に「学生コメント (一部)」を示す。

- ジェンダーの問題では、一人ひとりの考えや気持ち大切に生活していかないといけない気がしました。
- 日本にも貧困の問題がまだあることが分かった。個人的な関わりだけではなく組織的な解決への道を探ることが大切である。
- 今社会で問題になっていることが分かったし、自分がそれに関心を持って動かないといけないと思えることがあり、いつもの国語とは違う内容でよかったです。
- これらの問題について考えてみて、実際に解決策を考えても何をしたらいいのか、かえって分からなくなってしまいました。
- 17の項目から問題を提起することは簡単だが、解決策を考えるのはとても大変だった。特に人の意識に深く根付いてしまっているもの、偏見をとりはらうことは難しいので、そこを考えていかなければならないと思った。

- 日本には私が思っている以上に問題が多いことが分かった。考えなければならない問題は日本国内だけでみたらもっとあると思うし、日本はもっと所得の低いの人々に目を向けるべきだと思う。
- 人それぞれの考え方や重視したいことは違うのだと思いました。やはりそういったことも尊重して分かり合えるようになれば平等な世界もやってくるのではないかと思います。
- 問題の多い社会で解決策を講じてもなかなかくならないのですが、一人で考えるのではなく幾人かの人たちと一緒に考えるとこんなにも策が出るものだなと思いました。
- 問題の解決策を考えれば考えるほど問題は生まれてくる。しかしそれによって減らすことができる。
- SDGsについては、生きていく上でもっと知っていく必要があるし、解決策を積極的に発信していくべきだと思った。LGBTを取り上げたが、なかなか状況変えることは難しい。偏見の目はなくなることはないということ踏まえた上での解決策を考えることが難しかった。
- SDGsでは、問題点は見つかっていてもその解決策を出す時に、自分が国の政策や動きについて何もわかっていないと気づいた。グループワークによってお互いの話し合うテーマが広すぎてなかなかまとまらなかった。もっと上手に話を進められたらと思う。
- 世界には様々な問題があり、多様に対応していく力が必要だと思った。私たちは、関心のあることを少しでも意識していくことが大切だと思った。

(3) 「生物の多様性とは何か」+「SDGsで考える」
授業形式の評価

これまでの5回にわたる継続的講義をもとにして、2つの設問を設定し調査してみた。その内容は

以下のものであった。

Q1 国語の授業として後半「SDGsで考える」授業は、前半「生物の多様性とは何か」の学習を深めることができたか？（調査20名）

とても深まった	ある程度は深まった	あまり深まらない	全く深まらない
12	6	2	0

Q2 もしあなたが高校生の時代に遡ってこの授業を受けたと仮定して、この授業のような授業を学びたいか？

とても学びたい	学びたい	ちょっと学びたい	学びたくない
10	6	4	0

4. 考 察

講義の前半は、環境の保全に不可欠な生物の多様性の重要性を論じ人間社会の在り方を批判的に捉え、思考させる国語的には定番の評論文であった。

設問1では、それにSDGsという未来社会に向かって人間が何をすべきかを問うテーマを付け加え一体化させる意味を学生に問うた。これに関しては、思った以上に一体型への評価が高かった。それは自然環境の問題、「今の問題」について考えることに加えて、後半では「未来の在り方」をSDGsという他の視点から考察することで学習を深化できる可能性を示唆していると考えられる。当然その学習には、座学だけではなく個人作業としての思考する時間と意見交換などの表出する時間、そして（個人の意見はさておき、合意形成としての）グループの意見を集約し発表する表現の時間とが、設定されることが重要である。その意味でもSDGsを第二のテーマにして評論文と一体化することの意味は、大き

い。

設問2は、このような少し長期にわたっていても内容的に新しく、インタラクティブである授業の在り方について問うた。今回は、大学1年生への新しい学習内容の提案であったが、高校生として仮定をした場合でも個人学習とグループ学習とを組み合わせ、近未来の自分達の在るべき姿について考える授業の在り方について設問したが、ある程度の評価を受けられたことを示している。今後、国語教育だけではなく日本の高等学校教育が新しい方向に舵を取ることを意義はあると考えられる。

5. 新しい教材を使用した授業展開の提案

これまでの実践的研究を踏まえて、以下に高等学校国語教育、現学習指導要領では「国語総合」「現代文A・B」「国語表現」、次学習指導要領では「現在の国語」「論理国語」「国語表現」で活用できる新しい教材(SDGs)を使用した授業を提案したい。

(1) 教科名(教材名)

『SDGs(持続可能な開発目標)』を活用したインタラクティブ学習

共通必修履修科目「現代の国語」の自然科学・社会学・環境問題等を素材にした教材に合わせて学習を設定する。なお、選択科目「論理国語」・「国語表現」などへの援用も可能である。

(2) 単元(題材)の目標

- ① 話し言葉の特徴や役割・表現の特色を踏まえてながら他者に配慮した表現や言葉遣いについて理解し遣うことができるようになる。(知識及び技能)
- ② 自ら思考しその内容を他者と意見を交わすことで、実社会に必要な知識や技能を身に付け

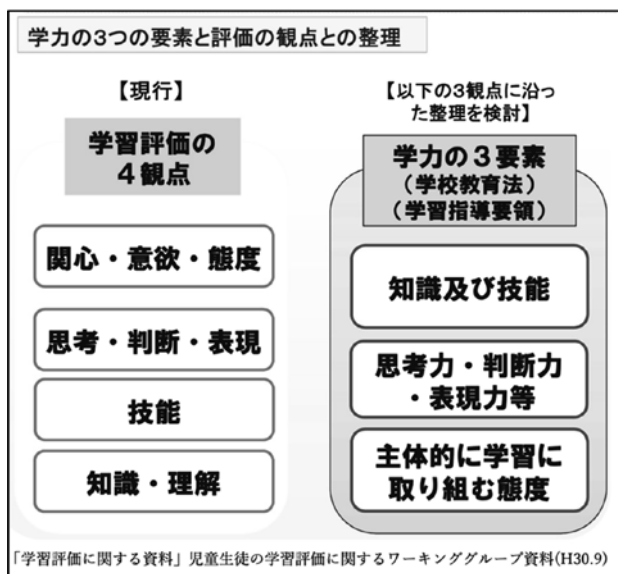
られるようになる。(知識及び技能)

- ③ 自分の考えが的確に伝わるように話の構成・論点や展開を工夫することができる。(話すこと・聞くこと)
- ④ 討議の目的・状況に応じて表現の仕方や結論の出し方を工夫することができる。(話すこと・聞くこと)
- ⑤ 目的や意図に応じて資料を活用しながら自分の考えたことを明確に表現することができるようになる。(書くこと)

(3) 単元の具体的評価規準

知識及び技能 関心・意欲・態度	思考力・判断力・表現力		
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
○	○	○	×
① 未来社会への方向性について理解できている。 ② SDGs(持続可能な開発目標)の内容について理解できている。 ③ 今後の世界の在り方や生徒自身の生き方を真摯に向き合い思考する姿勢をもっているようになる。	① 教員の説明や資料を基に自分の考え方をまとめることができる。 ② 他の生徒へ自分の考えを的確に伝えることができる。 ③ 他の生徒の考えている内容を受け止め、それをもとに自身の考えを深めることができる。	① グループ討議を前に資料を踏まえて自分自身の考え方を文章としてまとめることができる。	

従来の学習指導要領では、評価の観点を「関心・意欲・態度」「思考力・判断力・表現力」「技能」「知識及び理解」の4観点としてきた。上記(3)「単元の具体的評価規準」でもそれに即した評価規準を設定している。しかし、本論文1.(2)「高等学校国語教育は、どのように変わるか」でも記述したが、新しい学習指導要領では、児童生徒が学校教



育で育成されるべき資質能力を「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱として提示された。教育活動の中で重視される資質・能力が変わることで、児童生徒に対する評価規準の軸も当然それに伴って大きく変わってくる。中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会は、平成31年1月「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」の中で学習評価の新しい観点を3つの柱に対応する形で「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」と設定した。3つ目の柱「人間性等」については、抽象的要素も高く教育活動の中では評価の対象とすることは非常に難しい。そのため学習に主体的に取り組む姿勢をクローズアップして学習状況評価に用いるようになったと言われている。ただ以上の評価軸の変更は、観点別評価をそれほど導入してこなかった高等学校教育の現場ではあまり意識をされていない。高等学校では新学習指導要領の展開まで若干の時間が残されている。この時間の中でこの3観点を共有化していく必要が急務である。

(4) 単元設定の意図 (指導観)

① 教材観

「生物多様性とは何か(福岡伸一)」は、地球規模の課題に対して良質な問題提起をしている良質の評論文である。多くの教科書に同著者の同様の内容の教材が採択されていることでも分かる。今回は、「生物多様性とは何か」を使用した。各教科書の各学年の自然科学・環境学・社会学等を素材にする評論文と合体させる形で今SDGsと結びつけて教材化を図ることが可能である。

新しい学習指導要領を踏まえた教材開発である。小学校中学校では既に学習展開がされているコミュニケーション能力の深化を高等学校国語教育でもこれまで以上に発展させる目的でこの教材開発をしてきた。

今後の国語の在り方を考えた上でも思考力・判断力・表現力を養う上で、これまでの座学中心の国語学習ではなく、コミュニケーションを深化させる形での授業展開を土台に、地球の在り方そして生徒自身の将来の在り方を思考する教材の開発を図った。

また理科学目「物理」「化学」「生物」「地学」の基礎科目や理数科目、公民科「公共」などとの横断的な学習が可能であると考えます。

② 「主体的・対話的で深い学び」の工夫

SDGs学習は、「主体的・対話的な学び」を進めるには格好の教材である。ユネスコの資料を教員が活用してPPT資料を作るなどをして活性化を図ることは可能である。その中で生徒自身の考え方をまとめる時間とそれをもとにしてグループ討議をする時間を活用して学習する時間を設定した。更に「深い学び」に関しては、資料をもとにして自分自身の考え方をしっかりと深める思考の時間を展開の中で十分に設定した。

(5) 単元の指導と評価計画（自然科学・社会的評論文 6 時間＋ SDGs 3 時間）

時	主な学習活動	教師の指導・援助	評価方法
1 5	自然科学・社会学・環境問題評論文の展開 例「生物の多様性とは何か」（福岡伸一） 文章の主旨は、「生物多様性が地球環境の保全に不可欠であるにもかかわらず、それをかく乱して占有することのみを求めるヒトの在り方」に批判を加え課題を考えさせる。	「生物の多様性とは何か」を例にしたが、使用する教材や学校（生徒）の実態に合わせて時間設定及び展開をする。	自然科学・社会学もしくは環境問題等の評論文の展開に合わせた評価方法を実施する。
6	個人学習 1 プリント（資料 1）を配布する。 「生物の多様性とは何か」で書き手の福岡伸一が主張したいことはどのようなことか 80～100 字程度でまとめる。 ※Key word「バランス」「生命体」「ヒト（人間）」の言葉を入れて記述する。 グループ学習 1 グループ（5 人程度）に分かれて各生徒の文章の説明をする。 ※構成的グループエンカウンターの要領で、一人 1 分 30 秒ずつ自分の書いた記述内容を説明する。 各生徒の発表を基にしてグループとして 80～100 字程度にまとめる。 3 グループ程度抽出して板書させる。 （書画カメラなどの ICT を活用してもよい） 各グループから 2 分程度のプレゼンをさせる。	○学習の振り返りを通して、書き手の主張だけではなく、それを元にした自分自身の考えをまとめるように指導する。 ○記述作業が滞っている生徒には、どうして書けないかを聞き取り、丁寧に支援をする。 ○本文を読解する中で今日の社会との関連で、気付くことがあったらメモをするように指示する。 ○メモ欄を活用し、他の生徒の発言から自分の気づかなかった項目を記録する。 ○まとめ役や発表役に片寄りのないように配慮する。 ○黒板に記入された記述もしくは書画カメラによって発表されたものを教員は次の時間までに記入し、際しそれを次の時間に配布する。	ワークシート（資料 1）への記入内容が思考されたものか。 観察を通して各生徒の姿勢を確認する。 協働的に参加して自分たちの考えをまとめているか。 他の生徒の考えている内容を受け止め、それをもとに自身の考えを深めることができているか。 グループ学習では、積極的に自分の考えを発表しているか、また他の生徒の考え方を誠実に受け止めて傾聴しているか。 まとめる作業では、協働的な姿勢を持って作業に参画しているか。

<p>7</p>	<p>(準備段階での教員の仕事) 前の時間に生徒が記入したものを教員が用紙に転載し配布する。それをもとに文章表現を比較してより良い表現を作る。</p> <p>SDGsについて「知っているか」の調査をする。</p> <p>PPT 資料を配布し、教員から説明する。(生徒にPC やスマートフォンを使って調べさせることも可能である。その際には時間を設定する)</p> <p>先に学習した教材(ここでは、福岡伸一「生物の多様性とは何か」)との学習の結びつきについて説明する。</p> <p>個人作業2及びグループ2活動用プリントを配布する。</p> <p>個人学習2 SDGs17項目の中で自分が関心のある2項目を取り上げて、その理由を記述する。</p>	<p>○初めから教員がまとめた答えを提示するのではなく、発表素材を並列させて批評的に発表物を比較させて表現力を育成する。</p> <p>○PPTによる説明や動画による教材を集めるなど、教員も生徒のSDGsの理解が十分に図れるようなビジュアルの工夫をする。</p> <p>○必ず先に学習した教材とSDGsとの結びつきについての時間を設定し、今学習している内容がグローバル且つ地球規模の課題を取り上げていることを理解させる。</p> <p>○難解な事項を考えさせるのではなく、身近にある生活課題を捉えるように指導する。</p>	<p>SDGs(持続可能な開発目標)の内容について理解できているか。また、今後の世界の在り方や生徒自身の生き方を真摯に向き合い思考する姿勢をもっているか。</p> <p>前の自然科学・社会学評論文との結びつきを理解しているか</p> <p>教員の説明や資料を基に自分の考え方をまとめることができている。</p> <p>資料を基に自分の考えを的確にまとめることができているか。</p>
<p>8</p>	<p>前時間の学習の確認</p> <p>グループ学習2 グループに分かれる。 グループ内で各自が取り上げた項目を一人2分間ずつプレゼンする。</p> <p>出されたいくつかの項目の中からグループとして1項目を取り上げて、その課題の解決策を考える。</p> <p>プレゼン 全グループが、それぞれのグループが取り上げた課題と解決策をまとめて黒板に記述して説明をする。</p> <p>配布プリント裏面のこの時間の評価をする。</p>	<p>PPTの活用などができる環境であれば、まとめる作業を各グループの課題として次時間にプレゼンする設定にしても良い。</p> <p>○教員も地球人として生徒と同じ課題を抱えている。生徒の学習の深化のためにも個人的な考え、吐露をしてまとめることが可能である。</p>	<p>積極的に討議に参加して自分の考えを表しているか。</p> <p>他の生徒の考えている内容を受け止め、それをもとに自身の考えを深めることができているか。</p>

(6) 指導にあたって

- SDGsの検討に関しては、現在の周囲にある生活環境など身近なところから課題を見つけ出せるようにする。
- グループの構成等は、充分位配慮したい
- 最後のグループプレゼンテーションでは、少数の生徒に依存しがちであるので全員が関わる姿

勢を大切にできるように指導者が目配をし配慮する。

- PowerPointなどのICTの活用を十分に検討したい。
- 学習理解の促進のためには画像としてSDGsを提示しそれぞれの課題等を展開する。また配布資料を作成し、十分な時間をかけて個人の思考と表現の援助に提供する。

(7) 他の教材との融合展開

この教材は他の自然科学等を題材にした教材もしくは環境問題の教材を学習した後に合わせて3時間

を設定することが望ましい。そこで2019年度の段階で出版されている検定教科書の中から並行学習が望ましい、もしくは並行学習が可能である教材の例として4社の教科書に使われている教材から抽出する。

SDGs 教材と並行学習が可能な教材一覧

出版社	現行教科書名	教材名
東京書籍	平成29年改訂 新編国語総合 精選国語総合 国語総合 現代文編 国語表現 平成30年度改訂 現代文A 新編現代文B 精選現代文B	「技術が道徳を代行する時（池内 了）」「客観的と抽象的（森 博嗣）」「時間と自由の関係について（内山 節）」「生物の多様性とは何か（福岡伸一）」「ラップトップを抱えた「石器人」（長谷川真理子）」「現代日本の開化（夏目漱石）」「欲望と科学（池内 了）」「まちの豊かさとは何か（山崎 亮）」「ルリボシカミキリの青（福岡伸一）」「未来をつくる想像力（石田英敬）」「真の自立とは（鷺田清一）」「科学的『発見』とは（小川真理子）」「人間の運命と科学（長谷川英祐）」「環境問題と孤立した個人（河野哲也）」「鏡の中の現代社会（見田宗介）」「社会の壊れる時（鷺田清一）」「原始社会像の真実（新納 泉）」「サッカーにおける「資本主義の精神」（大澤真幸）」「豊かさとは生物多様性（本川達雄）」「未来のありか（若林幹夫）」「思考の肺活量（鷺田清一）」「時分の花と非成熟社会（中村雄二郎）」
明治書院	新精選国語総合 現代文編 新高等学校国語総合 新精選現代文B 新高等学校現代文B	「多様性は人だけのものか（福岡伸一）」「美意識は資源である（原 研哉）」「マルジャーナの知恵（岩井克人）」「時間をめぐる衝突（内田 節）」「マンモスの歩いた道（池内 了）」「ネットとリアルのあいだ（西垣 通）」「働くことの意味（内田 樹）」「自由の優越（大澤真幸）」「愛づる（中村桂子）」「宇宙では「上」も「下」もない（小浜逸郎）」「ロボットとは何か（石黒 浩）」「コンコルドの誤り（長谷川真理子）」「『間』の感覚（高階秀爾）」「おまえはどこに立っている」「私の個人主義（夏目漱石）」「世間とは何か（阿部謹也）」「脳の中の古い水路（福岡伸一）」「科学と世界観（村上陽一郎）」「ものごと（木村 敏）」「いのちのかたち（西谷 修）」「モードの視線（鷺田清一）」「身体という受動性（細見和之）」「現代日本の開花（夏目漱石）」
第一学習社	平成29年度改訂 新訂国語総合 現代文編 国語総合 標準国語総合 新編国語総合 平成30年度改訂 現代文B 標準現代文B 現代文A	「ネットが崩す公私の境（黒崎政男）」「交換は楽しい（内田 樹）」「『文化』としての科学（池内 了）」「オンリー1か、ナンバー1か（稲垣栄洋）」「生と死が創るもの（柳沢桂子）」「自律という虚構（小坂井敏晶）」「グローバリズムの遠近感（上田紀行）」「科学は正しいか（養老孟司）」「イースター島になぜ森がないのか（鷺谷いづみ）」「働かないアリの意味がある（長谷川英祐）」「消費社会とは何か（國分功一郎）」「『集合知』という考え方（西垣 通）」「動的平衡（福岡伸一）」「トランス・サイエンスの時代（村上陽一郎）」「ヒトはなぜヒトになったのか（長谷川真理子）」「新しい地球観（毛利 衛）」「クマを変えてしまう人間（千松信也）」
三省堂	平成29年度改訂 国語総合 現代文編 精選国語総合 明解国語総合 平成30年度改訂 現代文B 精選現代文B 明解現代文B 現代文A	「ネットが崩す公私の境（黒崎政男）」「自然をめぐる合意の設計（関 礼子）」「生物と無生物のあいだ（福岡伸一）」「もの」の科学から「こと」の科学へ（池田清彦）」「グローバリゼーションの光と影（小熊英二）」「情報の「メタ」化（外山滋比古）」「『もの』の科学から「こと」の科学へ（池田清彦）」「命は誰のものなのか（柳沢桂子）」「魚は陸から離れられない（松浦啓一）」「届く言葉、届かない言葉（鷺田清一）」「文系と理系の壁はあるか（最相葉月）」「人類による環境への影響（鷺谷いづみ）」「病と科学（柳沢桂子）」「南の貧困／北の貧困（見田宗介）」「『なぜ』に答えられない科学（池内 了）」「擬似群衆の時代（港 千尋）」「現代日本の開化（夏目漱石）」「未来世代への責任（岩井克人）」「コンクリートの時代（隈 研吾）」「『選べる社会』の難しさ（松田美佐）」「日本文化の雑種性（加藤周一）」「コンコルドの誤り（長谷川真理子）」「持たないという豊かさ（原 研哉）」「ネット人格（坂村 健）」「科学的というのはどういう方法か（森 博嗣）」「かけがえのない未来（養老孟司）」

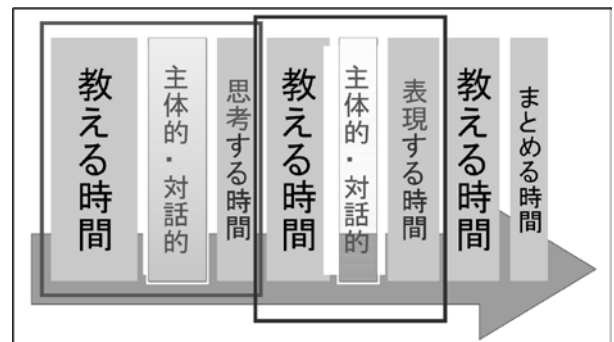
明治書院	新精選国語総合 現代文編 新高等学校国語総合 新精選現代文B 新高等学校現代文B	「多様性は人だけのものか (福岡伸一)」「美意識は資源である (原 研哉)」「マルジャーナの知恵 (岩井克人)」「時間をめぐる衝突 (内田 節)」「マンモスの歩いた道 (池内 了)」「ネットとリアルのあいだ (西垣 通)」「働くことの意味 (内田 樹)」「自由の優越 (大澤真幸)」「愛づる (中村桂子)」「宇宙では「上」も「下」もない (小浜逸郎)」「ロボットとは何か (石黒 浩)」「コンコルドの誤り (長谷川真理子)」「「間」の感覚 (高階秀爾)」「おまえはどこに立っている」「私の個人主義 (夏目漱石)」「世間とは何か (阿部謹也)」「脳の中の古い水路 (福岡伸一)」「科学と世界観 (村上陽一郎)」「ものごと (木村 敏)」「いのちのかたち (西谷 修)」「モードの視線 (鷺田清一)」「身体という受動性 (細見和之)」「現代日本の開花 (夏目漱石)」
------	----------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 結 論

新しい学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」については、様々な議論がありいくつかの実践が提案され、昨今はある程度の落ち着きをもって迎えられている。「主体的」に関しては、抽象的ではあっても元来の言葉から来る推量ができる。また「対話的」に関してもきっとこのような形であろうということでアクティブ・ラーニング等の技法が提案されてきた。ただ結句の「深い学び」になるといくつかの調査（河合塾「ガイドライン」2017.11）でも「分かりにくい」というパーセンテージが高く出ているのが現状である。

2014年から2015年にかけて中教審の中で「アクティブ・ラーニング」という文言がやりとりされ、新学習指導要領にこの言葉が入るのではないかとの嵐が吹き荒れた。教育現場のみならず「商い」になるものと認知した教育出版会を巻き込んでいくつかの「流派」「派閥」が突然発生し始めた。それに伴って様々な研修会が生まれ、様々な出版物が発行されるようになった（その一端を大池も担ってしまった反省はある）。文部科学省の「用語集」では、アクティブ・ラーニングは「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称」とされている。つまりは、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教育手法の一つとしてあるのであ

る。それは、目的ではなく、あくまで手段・技法である。教育手法「アクティブ・ラーニング」を活用することによって「主体的な学び」「対話的な学び」を図り、修得した知識を関連付けて自らの課題を発見して自ら解決策を考え、自分の思いや考えを発展的に「深く学ぶ」展開をすることを求めている。ではその「深い学び」にどのように至るのか。これに関しては、中教審の答申の中で文部科学省は以下のように示している。「知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう『深い学び』が実現」されるためには、「教員はこの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面で効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。」（棒線 大池）と。ここにこそヒントが隠されている。



換言すると「深い学び」に至る授業は、教員が「教える時間」、生徒が「主体的・対話的」な展開をする時間と「思考し判断し表現する」時間で構成するように効果的に設計して指導するということだ。

学校の教員の性（さが）として、元來說明が大好きである。どうしても児童生徒が分かるまで説明を繰り返し、説明に説明を重ねてかえって分からなくなってしまう。肝心なのは、思考・判断そして表現する時間を作為的かつ確実に提起することである。その意味でも今回の学習指導要領の改訂は、（特に高等学校の）教員の授業の姿勢を大きく転回する提案をしたという大きな意味を持っている。さらに換言すると、勇気をもって教員が沈黙し、思考させる時間を確保することで学習の最終目標である「深い学び」に至ることができる。

この「教員が勇気をもって沈黙し、思考させる」上でも SDGs の教材は効果がある。更にこの教材の利点として

- (1) 作為的に個人・グループで思考する場面が多い。
- (2) 近未来の形課題であり、より身近な課題として捉えやすい。
- (3) 国語だけではなく教科を横断して学習することが可能である。
- (4) そして何よりも教授者も同時に抱えている未来への問題であり、教授者も一緒に学びながら進んでいくことができる。

この教材の利点は以上の4点である。新しい国語の流れを踏まえたインタラクティブで思考させることができる授業であると考え、今回の研究と提案を

閉じたい。

引用文献・資料

- 「未来の授業 私たちの SDGs 探究 BOOK」(2019 宣伝会議)
- 「SDGs 入門 (日経新書)」渡辺珠子 (2020 日本経済新聞社)
- 「SDGs 国連——世界の未来を変えるための 17 の目標——2030 年までのゴール」日能研教務部 (2017 みくに出版)
- 「持続可能な地域のつくり方——未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン——笥裕介 (2019 英治出版)
- 「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」蟹江憲史 (2018 紀伊國屋書店)
- 「他者に貢献するプレゼンテーションをしよう ～ SDGs と課題発見 ～: 上田祥子」(2017 明治書院「国語の窓」2月号)
- 「『深い学び』を考える」河合塾 (ガイドライン 2017 年 11 月号)
- UNICEF「持続可能な開発目標を伝える先生のためのガイド」(2017. 10) パンフレット
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>
- 「SDGs とは」外務省
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>
- 「2030 SDGs で変える」朝日新聞
<https://miraimedia.asahi.com/?yclid=YJAD.1>
- 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 国語編 (平成 29 年 7 月) 文部科学省
- 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 国語編 (平成 30 年 7 月) 文部科学省
- 「児童生徒の学習評価の在り方について (報告)」中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会 (平成 31 年 1 月)

2019 教職基礎セミナー

SDGs 学習2

グループ作業1

- 1 グループに分かれて各自の文章の説明をする。(一人2分程度)
- 2 各自の説明を基にして、グループとして100字程度にまとめる。(安直に一人の説明文をそのまま取り上げない)

- 3 グループでまとめたものを基にして、プレゼンする。

2019 教職基礎セミナー

SDGs 学習1

個人作業1

学籍番号	氏名
------	----

- 1 福岡伸一『生物の多様性とは何か』で彼が言いたかったこと(主張したいこと)はどのようなことか、80～100字程度でまとめる。
※Key word 「バランス」「生体」「ヒト(人間)」の言葉を入れて記述する。
※ヒント [短文 + その説明] の形式で記述すると書きやすい!

メモ

2019 教職基礎セミナー

SDGs 学習3

学籍番号	氏名
------	----

個人作業2 (10分)

1 SDGs 17 項目の中で自分が関心のある2項目を取り上げて、その理由を示す。

SDGs 項目 1 :

理由

SDGs 項目 2 :

理由

グループ作業2

1 グループ内で各自が取り上げた項目を一人2分間ずつプレゼンする。(10分)

(他の生徒の発表で気付いたこと)

2 出されたいくつかの項目の中からグループとして1項目を取り上げて、その課題の解決策を考える。(15分)

3 プレゼンテーション(発表)

SDGs 項目 :

解決策

2019 教職基礎セミナー

SDGs 学習3 画面

1 自分のグループのメンバー

氏名 () 氏名 ()

氏名 () 氏名 ()

氏名 ()

2 自己評価

① 自分自身の考えをまとめることができた 4 3 2 1
強く思う→ →そう思わない

② グループ内で自分自身の意見を適切に 4 3 2 1
表現できた。

③ 意見交換などの際に他の学生の発言 4 3 2 1
や考えを受け止めることができた。

④ グループ討議に積極的に関わることが 4 3 2 1
でき、チームに貢献できた。 強く思う→ →そう思わない

3 講義・授業の振り返り (個人的に分かったこと)

4 5回にわたって「生物の多様性とは何か」+「SDGsで考える」という新しい学習を実施してきました。個人的な感想を聞かせて欲しい。付き合ってくれてありがとう。
(1) 国語の授業として後半「SDGsで考える」授業は前半「生物の多様性とは何か」の学習を深めることができたか?

とても深まった	ある程度は深まった	あまり深まらない	全く深まらない
---------	-----------	----------	---------

(2) もしあなたが高校生の時代に遡ってこの授業を受けたと仮定して、この授業のよう
な授業を学びたいか?

とても学びたい	学びたい	ちょっと学びたい	学びたくない
---------	------	----------	--------


2020/2/18

35人のクラスに置きかえると…
安全な水が手に入らない人は
10人

35人のクラスに置きかえると…
種類の貧困状態の下で暮らしている人は
6人

35人のクラスに置きかえると…
栄養が足りない15歳未満の子ども数は
8人

35人のクラスに置きかえると…
トイレを控えない人は
20人



知る、思い込んでいて、このままならぬ。これからどうなるか。な。どうしてつてのめがけが「持続可能な開発目標」。


2020/2/18

2019 後期
教職基礎セミナーⅡ
—生物の多様性とは何か—
& SDGs
2019.12.03

資料編

持続可能な開発目標 (SDGs)
Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

2015年9月、「国連持続可能な開発目標（SDGs）」が採択され、150を超える国々が参加して、2030年までの期限と目標となる「持続可能な開発目標（SDGs）」17項目が採択された。



持続可能Sustainable
(サステイナブル) って？
今ある世界のさまざまな問題を解決し、「人間がずっと地球に住み続けられるように開発・発展する」にはどうしたら良いだろう？と世界みんなまで考えた17の目標。UnicefHPから

クラス (35人) が世界だとしたら…

2020/2/18



目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人が、安くで安全で持続可能なエネルギーをすつと利用できるようにしよう

日本の課題
可燃性・化学燃料（石油・石炭等）資源に依存する日本では、将来的にエネルギーが不足する！



目標6：安全な水とトイレを世界中に
だれもが安全な水とトイレを利用できるようにし、自分たちですつと管理していくようにしよう

日本の課題
日本は水資源に恵まれた国。しかし、高齢者の急増と人口減少の進展は、山間部や離島など、水が手に入りにくい地域や、水質汚染のリスクがある地域を生み出している。



目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう
強靱に強いインフラを整え、新しい技術を開発し、みんなに役立つ安定した産業化を進めよう

日本の課題
日本の電気やガスは91.7%を外国から輸入している現状を変えなければならぬ。再生可能エネルギーは？




目標8：働きがいも経済成長も
みんなの生活を豊くする安定した経済成長を止め、だれもが人間らしく住める仕事を創り出そう

日本の課題
健康寿命と平均寿命の差が大きい日本。高齢者を支えるためには経済的な負担も意識しないといけない。



目標11：住み続けられるまちづくりを
だれもが守つと安全に暮らして、災害にも強いまちをつくらう

日本の課題
日本は自然災害で亡くなる人のパーセンテージが高い！外国に比べて台風、水害、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火などの自然災害が発生しやすい国土



目標10：人や国の不平等をなくそう
世界中から不平等を減らそう

日本の課題
10万人あたりの自殺率は、17.8%でドイツの3倍もある。明らかに学校や社会のストレスを抱え込みすぎている。これを変えるには？

2020/2/18

日本に住んでりや関係ないもんネ
それって、ホントがなあ資料



目標1：貧困をなくそう
地球上のあらゆる形の貧困をなくそう

日本の課題
先進国はずの日本では6人に一人が貧しい生活（相対的貧困）を送っている。子供の貧困率13.9%は、ケッコウ高い



目標2：飢餓をゼロに
飢餓をなくし、だれもが栄養のある食料を十分に手に入れられるように、世界の食糧を守り続けるのが目標を定めよう

日本の課題
世界に必要な食品を日本ではたくさん捨てている。2、759万トン/年食品ロス。大きな問題！



目標3：すべての人に健康と福祉を
だれもが健康で幸せな生活を送れるようにしよう

日本の課題
世界の寿命は、地域で様々。50歳も生まれない国はたくさんある。今後、日本では高齢化が進み、一人の高齢者を二人で支えなければならぬ。



目標4：質の高い教育をみんなに
だれもが公平に、自己教習を受けられるように、また一生に渡つて学習できる機会を広めよう

日本の課題
生活環境・地域や保護者の年収によつて受けられる教育に格差が生じている。この前中止になった大学入学生テストに、英語外部試験活用の問題をご存知か？




目標5：ジェンダー平等を実現しよう
男女平等を達成し、すべての女性と女の子の能力を伸ばし可能性を高めよう

日本の課題
世の中は男と女、だけではない。そんな常識？LGBTや障害者にとつて今の日本の社会は生きづらい？

2020/2/18

もう一度！
日本に住んでりや
関係ないもんネ
それってホントっ？



SDGs学習 1

個人作業 1

1 福岡伸一『生物の多様性とは何か』であなたが言いたかったこと（主張したいこと）はどのようなことか、80～100字程度でまとめろ。

※keyword 「バリエーション」「多様性」「生物多様性」の言葉を入力して探す。

SDGs学習 2

グループ作業 1

1 グループに分かれて各自の文章の説明をする。（2分程度）
2 各自の説明を基にして、グループとして100字程度にまとめる。
3 グループでまとめたものを基にプレゼンする。

2020/2/18

12 責任ある消費と生産
無限のシンボル

目標12：つくる責任とつかう責任
生産者も消費者も、地球環境と人々の健康を守るよう、責任ある行動をとろう

日本の課題

清掃工場の処理能力が上がりビニール製品、不燃物などのゴミがそのまますべて処理されるようになったけれど、リサイクルの弊害はまだまだ不十分。

13 気候変動に具体的な対策を
地球温暖化

目標13：気候変動に具体的な対策を
気候変動から地球を守るために、今すぐ行動を起こそう

日本の課題

大気中のオゾン層の破壊には、日本企業の責任がある。最近これまでも蓄積された生産活動によって気候変動を誘発してきた。地球温暖化を防ぐために日本の力が求められている。

SDGs学習 1

個人作業 1

1 SDGs 17項目の中で自分が関心のある2項目を取り上げて、その理由を示す。

SDGs学習 3

個人作業 2

1 SDGs 17項目の中で自分が関心のある2項目を取り上げて、その理由を示す。